



# PREX NOW



財団法人 太平洋人材交流センター  
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 メッセージ  
2002年度事業について  
PREX専務理事 三田 昌孝
- page 2 セミナー  
ビジネスシミュレーションを通して、  
経営者のマインドを体験するボスニア研修員
- page 3 セミナー  
「中央アジア市場経済理解のための  
マーケティングセミナー」を実施
- page 4 セミナー  
PREX 京都府・舞鶴市とナホトカ市を結ぶ
- page 5 特集【各国研修員からのメッセージ】  
中国 譚 綱(タン・ガン)さん  
ベトナム ドー・クワン・タインさん
- page 6 PREXだより  
2002年度事業計画  
事務局ニュース  
コラム



メッセージ

MESSAGE

## 2002年度事業について

PREX専務理事  
三田 昌孝



### 「中小企業振興」研修への要望が増加

昨年度の事業では、当財団が受託・実施した全研修24コースの内、実に9コースが「中小企業」をテーマとする研修であった。近年「中小企業振興」研修への要望が著しく増加してきた。これは、各途上国の産業構造に違いこそあれ産業・経済発展の支えとなる中小企業が果たす役割についての認識が高まり、かつ途上国が共通して抱える高い失業率等への重要なキーワードとしても日本の中小企業の育成・振興政策への関心は非常に高い為である。当財団が東大阪市や尼崎市など中小企業の一集散積都市を抱える関西を拠点とする恵まれた立地条件にあり、更に地方自治体や多数の関西企業による支援で設立され運営されている事も大きな理由である。設立時の多額の出捐金に続き、企業現場の実務経験豊かな職員のPREXへの出向支援、講義や現場研修における産・官・学各方面からの全面的バック・アップ...など研修コンテンツがユニーク且つ実践的であると評価される理由がここにある。

PREXの2002年度事業では、昨年に引き続いて「中小企業育成・振興」をテーマとする研修が主要研修となる。更には、新しい取り組みとして中国等のWTO加盟を受け今後アジアを取り巻く経済環境の変化への対応などにも関心が集まっているので新しい研修の企画・構想を練る必要がある。

### 日本人青年と研修員の交流

昨年度の事業の中で特筆すべき反響を見た事業として、海外の青年達と同年代の日本人青年合同による合宿セミナーがある。これは、JICAの『青年招聘事業』の一環として行なった「交流プログラム」で、本来はベトナムの将来を担う青年用に企画されたイベントだが反響はむしろ日本側参加者から起こった。国際化、グローバル化が日常的に叫ばれる今日、外国旅行など海外経験を持つ若人は非常に多い。然し、海外の同じジェネレーションの青年達と3日間同じ釜の飯を食べ、膝を交えて話し合う合宿セミナーの機会に巡り合える事は稀である。通りすがりの旅人の様な表面的接点ではなく、普段気の付かない異文化との遭遇が各所に発見・体験され、参加出来た喜びを日本人青年達から多く聞かれた事には我々自身大きな驚きであった。日本人の更なる国際化の為に是非この様なプログラムは継続したい。

### 研修員による同窓会ネットワークの充実

その他PREXの帰国研修員による同窓会が組織されているが、最近10カ所目としてモンゴルにも同窓会ができ10カ国・地域の同窓会会員数は合計1,100名にのぼる。これはPREXにとり大きな力で会員同志のネットワークは云々までもなく、各国の人材育成や研修テーマに関する詳細な現地情報などPREXの貴重な情報源となっている。昨年は、タイの同窓会が独自の研修セミナーを開催したが、PREXはこのセミナーに3名の日本人講師を派遣し、セミナーの運営を支援した。この様に各地の同窓会による自発的な現地研修の実施希望があるところからPREXではカリキュラム作成への助言や講師の派遣など可能な限りこれらを支援し日本国内における研修との連携を模索しながら更に大きな広がりをもつ「輪」に育て、真に現地のニーズに応える研修を提供して行きたいと考えている。皆様方のご支援を願ってやまない。

## ビジネスシミュレーションを通して、 経営者のマインドを体験するボスニア研修員

PREXは、1月21日から2月8日までの3週間、国際協力事業団（JICA）より委託を受け「ボスニア・ヘルツェゴビナ中小企業振興」を実施した。参加したのは、中小企業振興に携わる行政官や企業経営幹部、最年少26才から最年長41才の研修員8名。日本を事例として、中小企業の発展とそれを支える振興政策についての講義、及び、企業見学を実施した。

また、市場経済への移行をはかる国に共通の課題である「国営企業改革」や「企業振興」に役立ててもらうため、コンサルタントなど実務家を討論会に招き、研修で学んだことをまとめ、討議することにより、同国での応用の可能性を考えた。



大阪産業創造館 あきない・えーどを訪問し企業活動の判断基準と企業支援について話を聞く研修員



家具のデザインから製造・販売を行っているデコラティブモードナンバースリーを訪問



東大阪市の三和鋳螺製作所を訪問し工場を見学する研修員



ニチレイフーズ高槻工場を見学

### おとなしい研修員？

従来の研修は、日本の中小企業振興政策に関する講義や視察を行い、そこから自国に活用できることを探すというパターンで構成していることが多い。しかし、ボスニア・ヘルツェゴビナを訪れた専門家によると、同国は経済発展への道を模索しているというより、基礎作りに着手したところのように感じられる。また、内戦後の混乱から人材不足の続く同国からやってくる研修員は、中小企業振興業務の経験が浅い方ばかりだ。そのような「若い」国・研修員にどのようなプログラムを用意したらよいのだろうか。

そこで、昨年3月に専門家として同国に行かれた中京大学 寺岡教授のアドバイスを元に、研修員が参加できるプログラム構成とした。まずグループ別に企業を設立してもらい、事業内容等を決定した。その企業がスムーズな活動を行うにあたって、現在のボスニアではどのような問題があるのか、その問題解決に政府が担う役割は何かを議論した。その間に、日本の中小企業経営者が抱えている問題点、どのように政府が解決・支援してきたのかを紹介し、

また実際に支援している機関への訪問を実施した。企業経営者の立場になって政府に期待すること、また、政府が企業に対し支援できることをシミュレーションすることで、中小企業振興政策の方向付けが考えられるように工夫した。

経験不足から来るのであろうか、今回の研修員は非常におとなしく、討議がなかなか進まない。しかし、寺岡教授を初めとする数多くの講師の熱意あふれるご指導で、またグループ討議では母国語で討議できる気軽さから、熱を帯びだし、時間を延長することもしばしばあった。

### 日本とボスニアの橋渡し

今まで海外とのつながりを持たなかった同国の中小企業だが、これからのグローバル社会において、海外との接点が必要となる。国際的に活躍できる中小企業の育成が経済発展には欠かせない。また、日本企業も競争に生き残るためにグローバル化への対応を模索している。研修を通じて、お互いの理解を進めることで、将来投資や貿易のカウンターパートとなり得るのではないかと。日本はアジア、ボスニアはヨーロッパと距離的にも心理的にも遠



い両国だが、研修中の様子を見てみると、新しい関係に踏み出そうとしていることが見えてきて、橋渡しをしたように感じた。

国際交流1部 加地 彰浩

### お世話になった企業・団体他

（訪問順・敬称略、本文中記載分は除く）

ナカムラエンジニアリングサービス、オフィスナリアイ、ニッソー機器、三和鋳螺製作所、大阪産業創造館あきない・えーど、リック、大阪市信用金庫、中小企業金融公庫堺支店、愛知県中小企業振興公社 中小企業支援センター、奥野工業、トヨタ自動車、産業技術記念館、ダン、靴下屋CSM、関屋メイヤス、東大阪商工会議所、ロダン21、ニチレイフーズ、デラコティブモードナンバースリー、ムラ・コーポレーション

## 「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」を実施

PREXは、2002年1月21日から2月15日まで、国際協力事業団（JICA）の委託を受け、「中央アジア市場理解のためのマーケティングセミナー」を実施した。参加者は中央アジア4カ国（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン）から来日した14名。行政官10名、民間企業経営者4名である。ソ連崩壊から10年余り、市場経済化に向けて中央アジア諸国は努力を続けているが、市場経済の経験がないため、市場経済とはどんなものか、感覚的に掴めていないといわれる。そのため本セミナーは、「講義、企業訪問や演習を通じて、マーケティングを学び、市場経済を理解する」ことを目的として実施された。5年目の実施であり、昨年度までの評価を元に、研修員がより主体的に取り組めるように工夫した。



「市場経済の基本概念」についてPREX神田顧問が講義

### 行政官も「にわかマーケティング部長」!

初日、中日、最終日に設けたレポート発表会は、研修員の課題と目的を明確にし、都度研修で学んだことを振り返り、マーケティング戦略をまとめるための演習である。初日に研修員は全員「マーケティング部長」に。国ごとに5つのグループ（キルギスは2つ）を編成し、グループ毎に「我が社が売上倍増を図るためのマーケティング戦略」といった具体的なテーマを設定した。そして、各テーマに取り組むために、講義、企業訪問でどんなことを学ぶべきか、目的意識をきちんと持ってもらうよう努めた。

全体の構成は以下のようにした。研修前半では主に、大学の講師や経営コンサルタント等による講義「市場経済の基本概念」「日本経済の現状と企業経営・産業構造の変遷」「マーケティング概論/各論」などを設けた。それを受けて企業訪問を行い、その企業で採っているマーケティング戦略や成功例をご講義頂いたり、製造販売の現場を見学させて頂いたりした。また、「中央アジアの輸出振興方策」「中央アジアを魅力的な観光地にするために」といったより大きなテーマも取り入れた。

### 特別コンサルティング

講義や企業訪問の際には沢山の質問が研修員から出されたが、それだけでは物足りない研修員もいた。

日本総合研究所の白石主任コンサルタ

ントにご講義頂いた後、キルギスからの研修員（製粉工場社長）は先生に食い下がり、自社が抱える問題について必死に相談。側で聞いていると、キルギスは法整備特に税制面が整っていないという。例えば、「自社は地域では大規模な企業だが、小規模企業と比べて不利な税制になっており、公正な競争ができない」という。また、他の研修員からは、「今後は高付加価値商品を作っていく必要があるが、高く課せられた付加価値税がそれを妨げている」といった声も聞かれた。

企業単位で経営戦略を見直すだけでは解決できない課題があり、日本の事例を参考に、民間、行政が協力して、より良い経営環境を整備してもらえたらと願っている。その意味では今回、行政官と民間経営者の混成チームとなっていたのは、有益ではなかったらうか。



山岡金属工業技術文化館を見学



大阪市中央卸売市場にてセリを見学



アサヒビール茨木工場を見学

### 研修を担当して

中央アジアの人々は非常に愉快でジョーク好き。彼らから見れば、「日本人は真面目過ぎるらしい! また、休日の京都観光では、男性の研修員が日本人の女の子をつかまえて「一緒に写真に写ってくれない?」と申し込むなど、日本人に比べて勇気があるというか...天真爛漫である。一緒にいる相手と楽しくやろうという気持ちが分かり、非常に嬉しく、楽しい思い出となった。

国際交流2部 若菜 愛

### お世話になった企業・団体他

（日程順・敬称略、本文中記載分は除く）

吉川経営研究所 吉川代表、神戸大学大学院 大津教授、川島織物、山岡金属工業、流通科学大学商学部 崔助教授、松下電工、佐川急便、資生堂、読売広告社、ロシア東欧貿易会、大塚製薬、日本貿易振興会、塩野義製薬、アサヒビール、JTB、コーナン商事、京セラミタ、深喜毛織、大阪市中央卸売市場

## PREX 京都府・舞鶴市と ナホトカ市を結ぶ

PREXは、2月17日から24日まで、京都府・舞鶴市ナホトカ市「木材加工(製材・住宅用製材加工)セミナー」を実施した。舞鶴市とロシア・ナホトカ市が姉妹都市であることから、昨年度に引き続き、京都府、舞鶴市、ロシア東欧貿易会の委託を受けたものである。昨年度は水産加工、今年度は木材加工をテーマとした。一行は6名で、全員がナホトカ市の木材加工関連企業の経営幹部であり、参加者は新しい知識の習得とビジネスパートナーの獲得を求め、期待に胸をふくらませて来日した。



舞鶴市、東林にて工場見学



舞鶴市、飯野港運にて荷役現場見学

### セレモニー

京都府商工部井上次長および舞鶴市瀬野助役を表敬訪問した。格式の高さに研修生一同は大変感動を覚えたようである。京都府では金閣寺をあしらった「おこしやすパッチ」を頂戴し、参加者はパッチをつけて金閣寺を見学した。ロシア語の京都案内もいただき、一同京都ファンになった様子。舞鶴市では、市役所に入る前に職員のみなさんの温かい拍手で迎えられ、10月にナホトカ市を訪問された助役と意見交換をする時間を得ることができた。また、舞鶴市主催で盛大な歓迎会も開かれ、忘れがたい友情を結ぶことができた。

### 講義・見学

プログラムは来日前に参加予定者に希望を聞いて構成した。ロシアとの木材取引の実務に携わっておられる伊藤忠商事(株)の関根氏からは、世界や日本の木材市場の動向などに加え、実務面での問題点にも言及があった。また、(株)シーケーエス・チューキの児玉 東京営業所長による木材加工設備についての講義では、参加者の抱えている技術的な問題にいたるまで指導があった。どのような質問にも的確な回答を得ることができ、参加者も大変感謝していた。舞鶴に向かう途中で、福井県にある山惣工業(株)にてシステムキッチンをつくっておられる現場を見学。舞鶴市内では、王子木材工業(株)吉田 舞鶴出張所長よりロシア材についての具体的な要望を伺い、東林、田中木材では工場

と設備を見学した。また、飯野港運の鍵本営業部長には舞鶴での日程のほぼ全体にご同行いただき、荷役現場の案内に加え、随所での確かな助言を得ることができた。舞鶴21、舞鶴港振興会では倉庫の見学と、舞鶴港について紹介いただいた。

### ビジネスミーティング

舞鶴港振興会のイニシアチブで、舞鶴港輸入木材協議会との意見交換会を持つことができた。実際にロシアから木材を輸入されている企業の方々とのミーティングとあって、大変活発なものとなった。参加者も国からプレゼンテーション用の資料や製品サンプルをもってきており、一人一人にプレゼンの機会があたえられ、ビジネスパートナーを獲得した参加者もあった。双方から忌憚ない意見が飛び交い、本音のディスカッションができたと思われる。引き続き、参加者全員での夕食会があり、そこでも引き続き交流を深めていた。

### 木材業界の交流の発展

昨年は、宮津で温泉を体験してもらったが、今年は舞鶴市のご好意で、舞鶴市内の格式のある日本旅館をご手配いただいた。純和風の上品な雰囲気に、来日経験のある参加者も大変喜んでおり、日本人も喜んでいて、日本への印象も深まった。1週間という短い日程の中で、新潟 大阪・京都 舞鶴 大阪 新潟と、移動が多く、参加者にはきついスケジュールとなってしまったこともあり、評価会ではあと2、3日日程を延長してほしいという希望や、エンドユーザーとの意見交換の機会がほしかったという意見がだされたが、全体としては大変高い評価であった。このセミナーが日本とロシア、京都府・舞鶴市とナホトカ市との友好交流の一端となることができれば幸いである。また、舞鶴港を利用した木材業界の交流が一層発展されることを期待する。 国際交流2部 主任 酒井 明子

### 【 研修生の声 】



#### 有限会社「レスコム」副社長 スタヴォフ、ワレリー・ゲンナー・ジエビッチさん

今回日本に来て、自分の仕事の現状に詳しい講師、専門家と意見交換できたので、帰国後の仕事に役立てたい。また訪問先の山惣工業(株)ではシステムキッチン家具の工場を見学したが、幹部と職員の皆さんの仕事振りはすばらしく、学ぶところが多かった。各木材工業の会社では、ロシア材取引についての具体的な要望を受けたが、今後は、舞鶴市とナホトカ市の姉妹都市という関係を生かし、相互に情報交換するなど、ナホトカの信頼のおける会社と取引がしてもらえるような関係を築いていきたい。



中国  
譚 鋼(タン・ガン)さん

中国広西生産力促進センター 副主任

2000年度「中国中小企業振興コース」に参加

### 広西省の中小企業の発展と技術人材の育成を強化

研修では、教室での講義と現場視察や実務研修を通して、日本の中小企業に対する経済振興政策の現状について学ぶことができました。特に中小企業の生産力促進のための技術分野の人材教育政策、その政策が中小企業に寄与した経済的な効果、国民生活への経済促進効果などについて基本的な理解を深めることができました。

そして帰国後、技術分野の人材育成、現場での技術教育実施の重要性とともに、企業経営においても人材育成が重要であることを実感しています。

私が勤務している中国広西生産力促進センターでは、中国広西省・省内での中小企業向けの教育訓練プログラムがあります。特に昨年の年初から、教育訓練事業部を開設し、1)商品の品質と数量の認証、2)企業診断、3)電子商取引、4)情報検索などの訓練コースを始めましたが、どれも好評です。

今後も中国広西生産力促進センターでは、PREXとの交流を深め、協力関係を一層深めていきたいと考えています。PREXから、専門的な技術のための短期、長期専門家を派遣いただきたいと思っています。また、中国広西生産力促進センターが主催する各技術の人材教育訓練コースから優秀な研究生を選抜して日本での研修に参加できるように企画したいと思っています。

\* PREXでは2002年度に、広西省で企業診断をテーマに研修を実施する予定です。



ベトナム  
ドー・クオン・タインさん

ハイフォン市貿易部副長官

1995年度「ベトナム経済運営管理コース」に参加

私たちは人材育成に注目する必要があります。人々の行動の成功と失敗の鍵になり、経済の発展するスピードは人材の質によるからです。発展途上国では、先進国の支援を求めており、人材育成の協力を行うことは国際協力というだけでなく、世界の人材の発展を意味します。PREXはこうした考えを実行している組織の一つだと思います。

ベトナムではいつの時代も人材育成を目指してきました。経済、科学、技術、文化、社会といった分野で多くの専門家が生まれ、ベトナムだけではなく世界のために尽力しています。ただ人材育成が進んでいない分野では、世界各国からの支援や協力を望んでいます。

新しい世紀を歩むに当たって、人材育成は重要です。人材育成の方法についてはセミナーなどを通して他の国にも広く紹介されるべきだと思います。

## 2002年度事業計画

	期間	研修名	内容	(2002.3月末予定)
受入研修	2002. 5～6	中小企業政策セミナー	中小企業振興	
	2002. 6～7	中国中小企業振興コース	中小企業振興	
	2002. 7	青年招聘事業「ハングラデシュ(中小企業経営)」	中小企業振興	
	2002. 10	日本市場マーケティングセミナー	輸出振興・マーケティング	
	2002. 10～11	モンゴル国中小企業経営研修	経営管理	
	2002. 11	南アフリカ貿易促進セミナー	輸出振興・マーケティング	
	2002. 11～12	中・東欧特設 中小企業振興セミナー	中小企業振興	
	2003. 1	ボスニア・ヘルツェゴビナ中小企業振興コース	中小企業振興	
	2003. 1～2	中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー	マーケティング	
	2003. 2	仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー	中小企業振興	
	2003. 3	関経連経営研修(アセアン地域対象)	経営管理	
	2003. 3	マレーシア経営幹部セミナー	日本の人材育成の現状、マルチメディア	
	未定	兵庫県 八幡ロフスク地方「マネジメント・セミナー」	未定	
	未定	メキシコ中小企業振興政策コース	中小企業振興	
	未定	京都府・舞鶴市 ナホトカ市「マネジメント・セミナー」	未定	
	未定	ミャンマー日本市場参入セミナー	輸出振興・マーケティング	
海外研修	2002. 5	NIS現地研修(キルギス他)	経営管理	
	2002. 9	AOTS・関経連アセアン海外研修	国際競争力向上	
	2002. 11	NIS現地研修(キルギス他)	経営管理	
	未定	中国広西省現地研修	企業診断	
	未定	中国専門家派遣	企業診断	

事務局  
ニュース

## 「PREX NOW」メール配信のお知らせ

機関紙「PREX NOW」を電子メール(pdfデータ)で毎月受信できます。郵送からメール配信に変更希望の方は、別添用紙で登録下さい。なお、ホームページからも登録が可能です。URL: <http://www.prex-hrd.or.jp>



## C O L U M N

## 研修員、日本のサラリーマン生活に驚く!

国際交流2部 課長代理 植田 真哉

JICAでは来日した研修員のために、研修時間外に活け花や茶道など、日本文化のコースを実施しているが、今回筆者が担当した東欧の研修員はそうしたのも積極的に受講し、限られた時間をフルに活用し、すすんで日本文化を学んでいた。筆者も研修員の熱意にこたえるべく、週末には鎌倉の神社仏閣を案内し、また、筆者にとって初めてのホームビジット受け入れも敢行し、日本のサラリーマン生活の実態を紹介した。

筆者宅は築40年近い団地型住宅である。来訪前は、「家中がハイテク機器でカルチャーショックを受けるのではないかと」等、妙な心配をしていた研修員だったが、ドアを開けて入るなり、経済大国日本のイメージと懸け離れた住宅事情の姿に驚きを隠せない様子であった(と同時に変な親しみを強めたようだ)。しかし狭い社宅も物珍しさの宝庫。靴を脱ぐ玄関に始まり風呂場、畳の部屋。「ベッドルームがない」とさも心配そうにしていた研修員に押入れの布団の説明をしたが、今度は「ゆかの上に寝ているのか」とさらに気の毒がる。わが家の台所兼食堂は6畳、研修員はとて入りきらないのでふすまを取り外したところ、「壁を壊して部屋を広げてくれた」と大喜び、こちらは欧米の暮らしを知らないわけではないので、彼らが珍しく感じるのがかえって新鮮であった。

本当の相互理解のためには自宅をみせることがいかに重要で効果的か、つくづく実感した一日であった。



## 編集・発行

財団法人 太平洋人材交流センター  
専務理事 三田 昌孝

大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル24階  
〒530-6691 (中之島センタービル内郵便局私書箱60号)

TEL 06-6441-2650  
FAX 06-6441-2640

ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>  
電子メールアドレス: [prex@prex-hrd.or.jp](mailto:prex@prex-hrd.or.jp)